

JMNA News Letter

まいこネットセンター（京都地域連携医療推進協議会）に京大病院が接続 患者さんへのデータ開示、病診連携開始

【経過】

◆2005年10月14日、2年の準備期間を経て、NPO京都地域連携医療推進協議会（愛称「まいこネット」）が正式に認可された。京都府医師会をはじめ、京都大学、京都府立医大、京都府看護協会などの京都府の医療に関わる団体から参加を得ている。京都府のデータセンター構築に向けて、NTT西日本株式会社との共同実験契約を結び、京都大学病院医療情報部を中心とした開発チームが2006年4月のデータセンター運用に向けて、技術面、運用面での検討を開始した。

◆2006年4月、まいこネットデータセンターの仕組みが完成。これを受けて、京都大学病院では、診療データをMML (XML)に変換する出力インターフェイスを開発。十分な試験運用を経て、2007年10月から正式なサービスを開始した。

【運用状況】

◆診療データは毎日18時に送信されている（入院1000名、外来2000から3000名の診療データ）。2007年12月現在でのデータ蓄積は1日1患者1文書と換算して約54万件。まいこネット登録者数は1800名余（京大職員、患者を含む。患者は約300名）。アクセス数は、月平均2500文書／月程度である。

◆センターサーバの仕組みは、宮崎、熊本、東京等と同じものを利用しているが、京都プロジェクトでは異なる運用を行っている。他地域と最も大きく異なるのは、病院からセンターへのデータ送信に関わる患者からの許諾の取り方である。他地域では、病院が患者に対してセンターへのデータ送付の許可を取る方式であるが、京都プロジェクトでは、患者はまず最初に「まいこネットID」を取得する。次いで、患者はこの「まいこネットID」に診療データを送るよう病院に対して「依頼」する（診療情報提供依頼書を病院に提出する）。この点が他の地域とは全く逆の発想である。

◆図1に示すように、病院にある診療データは、病院外のデータセンターに日次送信される。これは、病院が管理する院外のバックアップサイトとして機能しており、患者の同意は取らない。病院の情報システムが事故等で停止した際、バックアップデータとして院内から参照出

来る。患者が診療情報提供依頼書を病院に提出すると、このバックアップデータから該当の患者データが、まいこネットIDに送られ、そこで初めて患者はインターネット経由で自分の診療データを閲覧可能となる。連携医療についても同様の制限を受ける。患者が複数の医療機関にかかっている場合、それぞれの医療機関に対して診療情報提供依頼書を提出する運用となっており、提出しない病院のデータは送られて来ない。このように、あくまでも患者の意思を最優先とした運用を行っている。

◆現在、京大病院職員全員（約1500名）と、申し込みのあった患者さん（約300名）に「まいこネットIDカード」を発行。事務局には、患者さんからかなりの頻度で問い合わせが来ている（ネット参照のトラブル、診療結果の参照に関する問い合わせなど）。ゆっくりした歩みではあるが申し込みは着実に増えており、このようなサービスを必要とする方々が存在していたことを実感している（図2～4参照）。

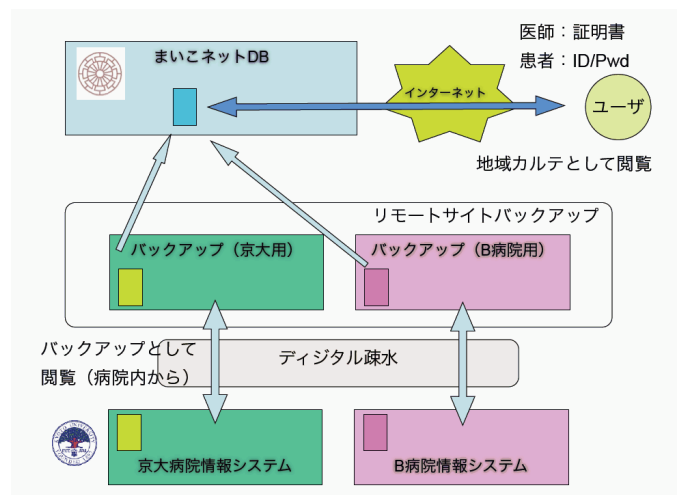


図1 まいこネットにおける診療データに対するアクセスコントロール：まず病院からデータセンターのバックアップセクションに医療データが送られる（病院のポリシーで取捨選択）。このルートは専用回線を使う。次いで、患者からの依頼に沿って、患者のまいこネットIDへ診療データが送られる（実際には、まいこネットIDと京大病院の患者IDがリンクされる）。依頼がなければ当然送られず（リンクされない）、病院ごとのバックアップデータとしてのみ使用され、開示、連携には使われない。



図2 まいこネットホームページ
<http://www.e-maiko.net/>

身分証のコピーなどを同封して事務局に申請すると、「まいこネットID」を発行される(カードも発行)。このIDカードを京大病院窓口にて提出し、診療データの閲覧申請を行うと、「京大病院発行の患者ID」と「まいこネットID」のリンクが設定され、まいこネットIDに診療データが送られるようになる。図の左端のボタンを押して、個人のカルテにログイン。

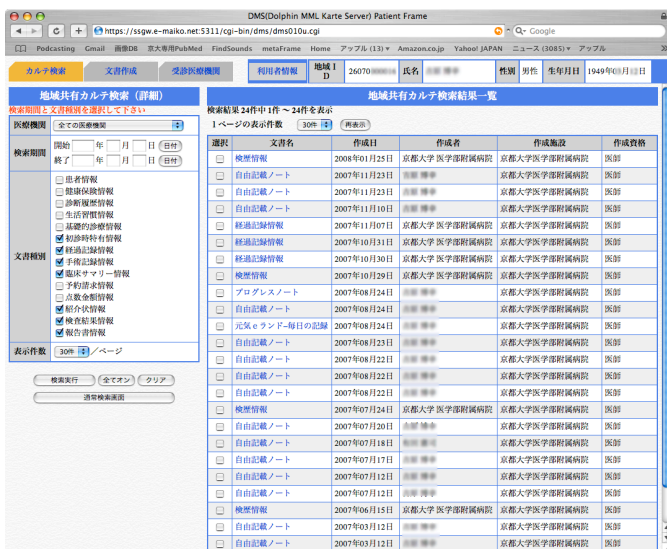


図3 まいこネットセンターのWeb電子カルテ画面

新しい記録から順にリスト形式で表示され、必要な記録を指定すると内容が表示される。

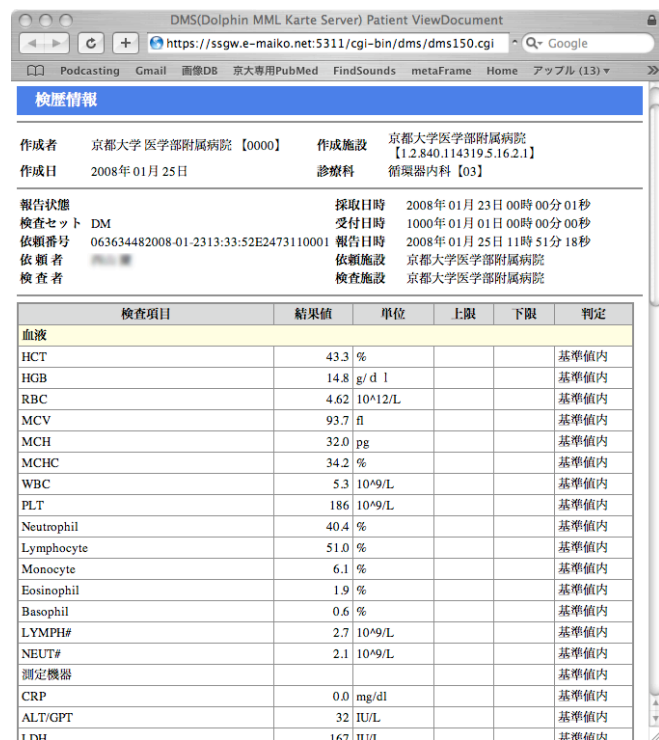


図4 検査結果を開いた画面

京大病院の運用では、現時点では毎日午後6時に診療データをセンターに送信している。外来の患者さんは、夜には自宅から結果を参照可能。現在、1時間ごとにデータを送信するよう検討中。

【参考情報】

- 1) Super Dolphinなど、プロジェクトについて
<http://www.ehr.or.jp/news/newsletter.html>
- 2) Dolphin Projectに関するビデオレクチャー
<http://lob.kuhp.kyoto-u.ac.jp/ENTLecture.mov>